

令和3年度 学校評価報告書

学校名	三田市立上野台中学校
-----	------------

1 学校教育目標

夢や未来を創造し、確かな学力と豊かな心でたくましく生き抜く生徒の育成

2 今年度の学校重点目標

- (1)「学力」の向上に向けた授業改善の工夫(充実した授業、質の高い授業)
- (2)「対人関係能力」の育成(人権尊重、生徒指導、開かれた学校)
- (3)職場環境の整備[生徒に向き合う時間の確保]
(協働して支え合う<<チーム上野台>>、勤務時間の適正化)

3 総合的な自己評価

今年度もコロナ禍の中、生徒たちは落ち着いた学校生活を送っていた。そのため、「学校生活アンケート」による生徒の評価は、概ね高い数値を示している。保護者の評価では、学力向上の取組や部活動の充実、生徒の授業以外での自主的な学習の取組を望む声が多く、生徒の受け止め方とはやや開きがあった。その点を教育課題と捉え、情報発信力や取組の充実を図りたい。また、教え方や頼りがいについても教職員に対する保護者の期待が表れていた。今後も更に生徒一人一人をよく見て生徒理解に努め、保護者と連携して個に応じた指導・支援を進めていく。

4 総合的な学校関係者評価

生徒の教育・指導において、時代背景に準じた教育と多岐に亘る学校生活への取組が工夫されて実施している。今後は、教職員(学校)が中心となって、関係者と連携して、生徒の健全な育成に努めてもらいたい。常に生徒主体で先生方と保護者が連携をとって学校運営が推進。ただ、見落としがないか細心の注意を払いたい。「学力」の向上に向けてしっかり取り組まれている。保護者の要望に応える必要はあるだろうが、生徒たちに身につけてもらいたい学力・スキルは多様化しており、意識を変えていく必要がある。先生方はきっちりと連携されている。コロナ禍、学校教育目標に向けた教職員の大変な努力を保護者も理解し、感謝している。小規模中学校の今後の参考に。来校時には全ての職員、子供たちが温かく迎えてくださるので嬉しく思う。校舎裏側の花にまで心配り。子供たち一人一人を大切に見守っていることが見受けられ、夢や未来を創造し、たくましく生き抜ける子に育てほしいと切に願う。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程 学習指導	分かる授業、楽しい授業の発展に努め、基礎基本の定着を図るとともに、生徒一人ひとりが確かな学力を身につけられる工夫	分かる授業を基盤として、学力向上の取組を進めつつある。	「分かる」から結果へつなげるアウトプットの部分を意識した学習指導を進めていく。	報告から具体的な取組が分かり好感が持てる。評価基準ははっきりせず、評価自体が難しい。分かる、分からないに応じた後押しで、全員学力アップを。ステップアップが実感できる検定受験でモチベーションアップを。健全な精神を培う指導や個性を見出すことも必要。
	GIGAスクール構想によるICT機器を活用した効果的な学習指導を実践	タブレットPCの文房具化や主体的な調べ学習の日常化を目指している。	生徒も教師も日々ICTに慣れることから始め、効果的な活用方法については研修等で協議し実践していく。	語学力・解読力が飛躍的に伸びる時期、探求力育成も。デジタル化を進めると同時にアナログ的思考も大事。知りたいことをすぐ検索し知的好奇心を充たせるように。時代に合わせた学習、授業として必要。保護者理解も。
生徒指導 いじめ防止	教育相談等の充実を図り、共感的生徒理解に基づく生徒指導や生徒個々の発達に応じた支援	Ue チューター(希望制教育相談)を改良して、より丁寧な生徒理解と支援に努めている。	特別支援教育の視点を大事にして生徒の特性に応じた指導・支援の工夫を行っていく。	地域内の第一の居場所として、生徒支援の充実を。今後も、不登校の生徒が孤立することがない対応を。抛り所、信頼できる先生がいることは生徒にとって大事。受容し共感することは難しいが、寄り添っていきましょう。
	本校「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ問題に対して迅速かつ組織的な対応	教育相談や毎月の「こころのアンケート」等での情報を共有し、早期対応に努めている。	未然防止に向けて、いじめを許さない個人・集団づくりを継続していく。日頃からの声かけも更に意識する。	集団生活の中でのルール遵守を基本として、特定の個人が疎外されることのない学校生活の環境作りを。多様性の中に互いを尊重し合える人間関係の形成を。尽力いただき感謝。
開かれた 学校づくり	学校園所連携の推進により、校区の『みんな育てよう』をもとに、生徒が安心して学べる学習環境づくり	組織的な連携体制を継続。特別支援、キャリア、英語教育等の交流を進めている。	『みんな育てよう』を更に分かりやすく実践しやすいものに改良していく。各担当の連携の充実を図る。	人生設計の基礎作り期、トライやる・ワーク等を通じて、国内・海外情勢や地域経済状況等取り入れた学習の推進を。生徒の意見を聞く機会や報告があれば評価しやすい。
	積極的に学校の情報を地域や家庭に発信し、互いに連携を深めて可能な限りの多様な教育力を活用した、より良い教育環境づくり	学校だよりを地域施設等で掲示。小学6年生や保護者へも配布し、発信している。	地域人材の更なる活用を図る。「虹プロジェクト」を地域文化活動としての意識を持って継続していく。	引き続き「学校だより」の地域への発信を。地域、区長、民生委員等との交流を多くし、人材確保を。地域住民も能動的に交流を図ろうとする姿勢取りたい。学校地域運営協議会欠かさず開催され、熱意を感じる。
研修・ 資質向上	教職員一人ひとりが指導力向上を図れるよう、特に新学習指導要領の目標達成に向けた学習指導の工夫や授業改善の研修を実施	全教員による授業公開等を実施して授業改善を図っている。	引き続き、「生徒の学び」のための授業改善を意識して、校内で研修していく。	専門教科指導に付随して、生徒に対して一日あるいは学年を通じて関わっていきける体制がとれないものか。教師も一社会人、一家庭人であり、心身の健康を願う。
	人権意識や危機管理意識の向上のもと、様々な教育課題への組織的な対応による家庭や地域に信頼される学校づくり	各種委員会等で情報共有を図り、より丁寧な対応ができるよう努めている。	教師自身も気づき、考え、判断できるよう組織的な体制を整える。また、コロナ禍における対応も意識しておく。	欠席多い生徒に対し対応のマニュアル化は必要であるが、家庭環境毎に教師・SSW・地域支援者等の連携必要。オープンスクール等の機会が減ったことが残念。